

記者発表 (発表・資料 配付)				
月/日 (曜日)	事務所等名	電話	発表者 (担当者)	その他の 配布先
10/23 (火)	県立農林水産技術総合センター (農業技術センター農産園芸部)	0790- 47-2424	所長 高松 宏文 (研究主幹 (果樹・花き 担当) 山中 正仁)	県政記者 クラブ

EOD 加温を利用した鉢物・花壇苗の省エネ暖房技術

鉢物・花壇苗は兵庫県の花生産の主要品目です（全国第5位）。その栽培上、春に出荷・販売する品目では冬、温室の加温が不可欠となっています。しかし、近年の石油価格の世界的な高騰による高い加温コストが経営を圧迫しており、生産現場では効率的な加温技術が強く求められています。そこで、日没後短時間の加温（EOD 加温）を適用し、加温コストを2～3割削減できる管理技術を開発しました。

1 開発技術の内容

- (1) 技術概要： 慣行の加温は夜間一定温度に設定されています（図1の右）。EOD 加温は日没後（End of Day）の数時間を慣行温度にくらべて高温とし、その後低温に設定する方法です（図1の左）。

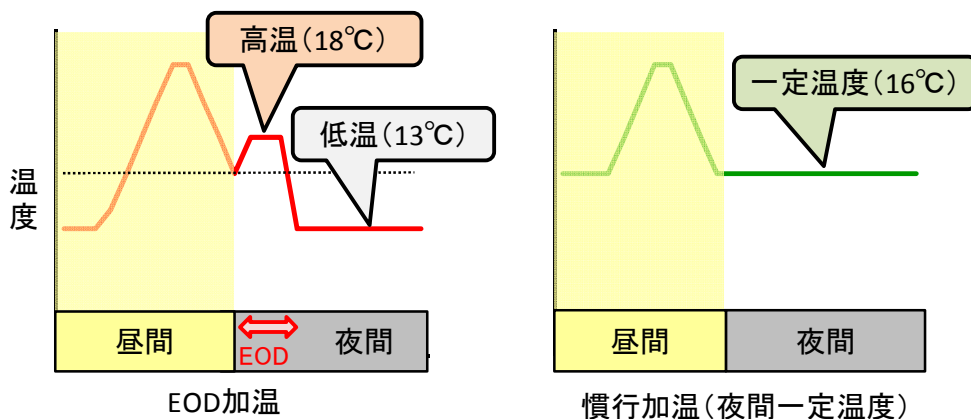


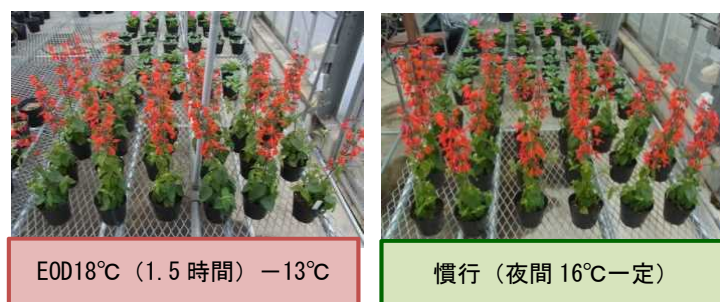
図1 EOD 加温（左）と慣行加温（右）の模式図

- (2) システム： 生産者既存の温室暖房機に4段サーモスタット（1台6～7万円）を取付けるだけで実施可能な手軽で安価な技術です。
- (3) 温度管理： 県下で栽培されている加温が必要な品目を対象に実験した結果、表の8品目に対して技術が有効で、また、品目によって「日没後1.5時間を18°C、以後13°C」と「日没後3時間を18°C、以後13°C」とする2パターンの温度管理に分類しました。EOD 加温では慣行加温と同等の開花時期および生育を確保できます（図2）。

表 EOD 加温が適用できる品目と温度管理

夜間の温度管理	品目	加温コスト (慣行比)
18℃ (1.5時間) → 13℃	サルビア・コクシネア	74%
18℃ (3時間) → 13℃	ガーベラ	78%
	ピンカ	
	サルビア・ファリナセア	
	サルビア・スベルバ	
	カリブラコア	
	球根ベゴニア	
	ブーゲンビリア	

サルビア・コクシネア



ガーベラ

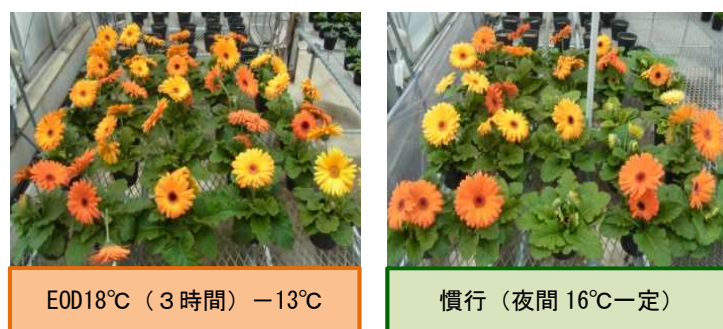


図2 EOD 加温は慣行加温と開花時期・品質は同等で加温コストは少ない

2 本技術導入の効果

暖房機による温室の加温コストを 22～26%削減できます。

3 県下の普及状況

技術センター、行政、普及が一体となり、県下の花壇苗生産農家（約 100 戸）に普及を進めています。昨年度には国の事業を活用して 1 戸の農家で現地実証し、兵庫県花卉協会（鉢物・花壇用苗物部会）を対象に研修会を開催しました。その結果、本年度から新たに 6 戸の生産者が県の事業（ひょうごの花づくり推進事業など）を活用して導入します。今後も普及拡大を図ります。